



工事に明け暮れの2年間

第13代学校長 櫻井 豊

在任わずか2年間でしたが、充実した日々であったと、当時の県芦関係者に心から感謝しております。

ふり返ってみますと、在任中は、教育環境整備のための工事に明け暮れた2年間であったという思いが強くなります。61年着任、7月からグラウンドの運動部室の全面改築工事開始、2学期になると、記念祭での体育館使用を最後に、早速体育館等の取り壊し作業開始、そしてその年度終りには校地の南側・東側の塀改築と、槌音ならぬ重機のうなる日々でした。しかも体育館改築は、プール・第二部室の改築もセットとなっていたため、1年余を要する長期工事となり、直接間接教育活動に大きな支障を来しました。体育館で体育授業のできないことはもちろん、体育館を練習場とする運動部には年余にわたる不便を強いました。又61年度卒業式は西宮市民会館で行うなど芦高始まって以来の異常事で、愛する母校で最後のしめくくりの式ができなかった42回生諸君には今でも申しわけない思いであります。

しかし、体育館工事中、芦屋市の特別のはからいで、長期にわたり優先的に市の体育館を運動部の練習の場として提供して頂き、芦屋市の県芦に寄せられる温い思いを嬉しく思いますとともに、芦屋市の関係機関でたくさん働いておられる県芦卒業生の陰の力もあったであろうと、これ又嬉しく思いました。

さて、教育内容ですが、芦中時代からの教育綱領である「自律・自治・自由」の精神は、私の在任中も連綿として生きており、事あるごとに先任の先生方からその精神を聞かされました。事実、生徒は自由闊達であり、他校で生徒会と称するものを自治会と称し、記念祭や県西との定期戦での自治会のはたらきには、さすがに歴史の重みを感じさせるものがありました。

ただ、この教育綱領については、私は着任時から一点こだわりを持っておりました。着任早々、過去のいろいろな資料を調べておられますと、綱領の「自治・自由」はすべての資料に共通しておりますが、「自律」が資料によっては「創造」となっており、何れが正しいか判然としなかったのです。通用門脇の石碑には「創造」が刻まれておるのに、学校要覧や「入学のしおり」では「自律」が記されています。私はこの混乱を解消するため昭和62年問題提起し、全職員の賛同を得て「自治・自由・創造」に統一しました。「自律」より「創造」を選んだのは、自律は自治に通ずるものであること、創造は、これからの個性尊重の教育の中において最も重視されるべきものであること、等によります。

先ほど述べましたように教育綱領は連綿として生きており、先生方も綱領に基づいての指導に努力して頂きましたが、その成果ということになりますと、やや低迷気味の2年間であったと思っております。生徒諸君は学校の「自由」な雰囲気を楽しんでおり、県芦は、今はやりの「いじめ」「登校拒否」「中途退学」等の問題には無縁な学校でした。ただ残念なのは「自治」能力の不十分さでした。諸行事に対しては十分発揮できる自治能力が日常生活に生かし得ていません。栄光の歴史を持つ県芦であるだけに、県芦の低迷は卒業生の方にはいささか無念であろうと思います。この低迷は、学区制等、学校を取り巻く客観状況の変化も一因ではなからうかと思えます。

先般発表されました、県教育委員会の「高等学校教育問題研究会」の中間報告によりますと、「芦屋学区を神戸第一学区と合併」することの是非が検討課題としてあがっています。県芦50周年が、或は、この学区制問題検討が、県芦隆盛の転機となればと思っております。

終りになりましたが、県芦50周年を心からお祝いしますとともに、学校、育友会、同窓会、生徒諸君ともども手を携えられまして、今まで県芦にかかわって来たすべての者がいつまでも誇り得る、すばらしい学校を作ってくださいることを心から念じます。